

令和2年度上半期消費生活相談状況の概要

1 件数 ⇒ 増加

県内の相談窓口に寄せられた相談件数は、県、市町合わせて 4,447 件。(前年同期比 536 件(13.7%)の増加)

内訳は、県センター1,794 件(40.3%)、市町窓口 2,653 件(59.7%)。

県センター受付分、市町窓口受付分ともに増加しており、県センター受付分 371 件(26.1%)の増加、市町窓口受付分 165 件(6.6%)の増加。

2 年代 ⇒ 相談割合は 70 歳代以上からが最多、すべての年代層で増加

70 歳以上からの相談が 983 件(22.1%)と最多、50 歳代 644 件(14.5%)、60 歳代 635 件(14.3%)と続き、すべての年代で増加。

3 内容等 ⇒ 定期購入を含む「健康食品」が増加

(1) 商品・役務別では、定期購入に関する相談が多く寄せられる「健康食品」が 430 件(9.7%)と最多。昨年の 246 件(6.3%)から 1 位に浮上。次いで、デジタルコンテンツ(インターネットを通じて得られる情報)を含む「放送・コンテンツ等」が 412 件(9.3%)、架空請求を含む「商品一般」が 393 件(8.8%)と続く。

(2) 架空請求の件数は 150 件であり、前年同期比(390 件)から大幅に減少している。

(3) 商品や役務等に関連して身体にけがや体調不良等の害を受けたという「危害」の相談が 64 件(14.3%)と増加。特に、食料品が 2.1 倍に増加している。

(4) 新型コロナウイルス感染症関連の相談は県、市町合わせて 530 件。

内訳は、県センターでは 276 件(52.1%)、市町窓口 254 件(47.9%)